

# 地域の自然資本経営の実現に向けた「生物多様性地域戦略策定の手引き」の作成

幸福 智

いであ株式会社

キーワード：生物多様性地域戦略，自然資本，地域経営

生物多様性地域戦略（以下「地域戦略」）の策定は地方公共団体の努力義務であるが，令和5年1月1日時点で，47都道府県・141市区町村の計186件が確認されている状況である。環境省では，「昆明－モンテリオール生物多様性枠組み」の採択や「生物多様性国家戦略2023-2030」（以下「国家戦略」）の閣議決定を受け，これらの考え方を踏まえ「生物多様性地域戦略策定の手引き」（以下「手引き」）の改訂を行った（当社は請負社として支援）。

これまで，地域戦略の策定数が伸び悩む理由として，労力や費用がボトルネックと考えられていた。しかし，同じく任意の計画である地方版総合戦略や地域再生計画はほとんどの市町村で策定されている。よって，労力や費用は数ある問題点の一つであり，本質的要因は「地域経営の中核テーマ」として認識されていないことと考えた。そこで，「地域の自然資本経営」という概念を戦略的に掲げ，まちづくりに関する計画（地方版総合戦略や地域再生計画等）への関連付けを推奨することで，地域の中核課題として捉えられるよう工夫した。また，価値創造については地域だけでなく企業との共創が重要である。これらの概念理解が進むよう，「地域と企業の価値創造プロセス」を概念化した図を作成した。

地域戦略策定にあたっての考え方においては，バックキャスティング・アプローチを重視し，地域住民にとっての長期的利益や Well-being を最終アウトカムとしたロジックモデルの作成と，そのロジックモデルに沿った状態目標・行動目標及び関連指標の設定を推奨する内容とした。ただし，これら一連の作業は一定の専門性を必要とするため，参考となるロジックモデルの例2パターンを示すとともに，国家戦略をベースとして地域にお勧めしたい目標及び指標を整理し，デフォルトオプションとして提示するとともに，「ひながた」と「目標・指標カタログ」を策定支援ツールとして整備し，手引きと合わせて提供することとした。

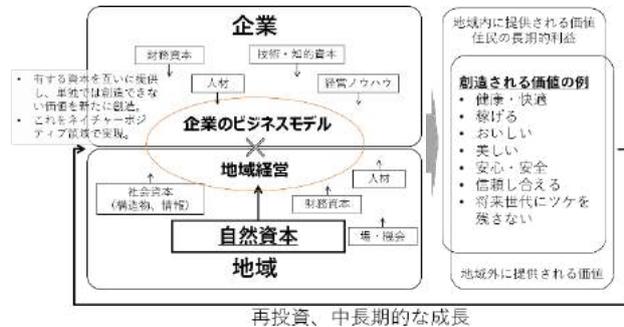


図1 地域と企業の価値創造プロセス

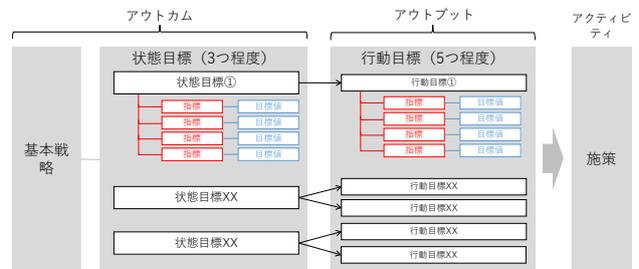


図2 ロジックモデルと目標・指標の関係

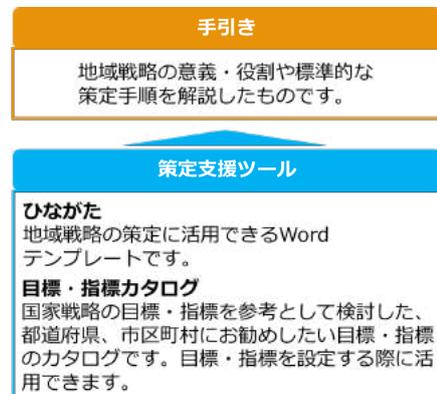


図3 手引きの構成